

「コンダクター型災害保健医療人材の養成プログラム」災害国際協力セミナーを実施しました (2023/11/25)

テーマ：カスケード災害・Natech 災害、災害による大量死、国際的災害対応、中長期的ビルドバックベター
会場：東北大学災害科学国際研究所（宮城県仙台市）

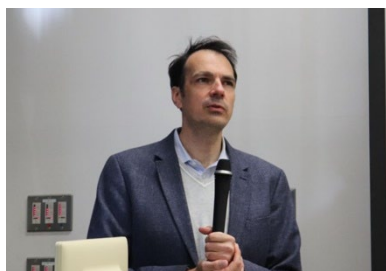
2023年11月25日（土）、「コンダクター型災害保健医療人材の養成プログラム」災害国際協力セミナーを、東北大学災害科学国際研究所で実施しました。プログラム履修生7名、オープン参加者1名が受講しました。パク・ヘジョン助教（災害医療情報学分野）、ボレー・ペンメレン・セバスチャン准教授（国際研究推進オフィス）、泉貴子教授（国際防災戦略研究分野）、永見光三特任教授（2030国際防災アジェンダ推進オフィス）が講師を務めました。またマリ・エリザベス准教授（同国際研究推進オフィス）が実習コーディネーター、佐々木宏之准教授（災害医療国際協力学分野）が会場運営・モデレーターを務めました。

病院や役場などに勤務しているプログラム受講生は、ふだん従事している医療や行政以外の災害の課題や、国際的な災害の話題に接する機会はほとんどありません。しかし、災害時の人びとの健康や福祉を考える際には、医療や福祉を取り巻くもしくは前後して発生する災害課題を理解しないと、一面的な支援に陥ってしまいます。パク助教は複合災害・カスケード災害、平時のリスクコミュニケーションについて、ボレー准教授は大量死の課題と遺体管理の重要性について、泉教授は国際的な災害対応全般と防災の重要性について、永見特任教授は JICA での活動とその反省に基づく日本、ネパールでの活動について、それぞれ講義しました。受講生は日頃接することのない災害発生の原理や、遺体管理、国際的潮流の話題に接し、自分達が活動する医療や福祉の現場と他分野の課題が密接につながり、災害を多面的に理解していく重要性に気づくことができました。

社会の災害対応力向上にはそれを実践できる人材育成が不可欠です。当研究所ではこのような実践的研修会を継続して開催していきます。



複合災害・カスケード災害について講義するパク助教



災害時大量死の課題について講義するボレー准教授



災害対応の国際潮流と防災の重要性を講義する泉教授



JICA での活動について講義する永見特任教授



ビルドバックベターについて質問する受講生



会場の様子